

# 心と心のふれあい交流

南国市には世界の友だちがいる

交通網の発達により、世界との距離が近くなった今日、よく国際化・国際交流という言葉が耳にするようになりました。国際化の波は、私たちの南国市にも押し寄せて来ています。高知県の陸・海・空の玄関口として、これからどんどん発展すべき南国市では、現在どのような交流が行われているのでしょうか。



南国市で生活している外国人の国籍別の人数です。現在二十三か国から百六十六人が来ているのよ。

	平成4年	5年	6年
中国	55	42	63
フィリピン	16	29	27
韓国または朝鮮	28	21	23
バングラディッシュ	6	9	7
ブラジル	5	2	7
マレーシア	6	3	6
アメリカ	9	4	4
インドネシア	5	1	4
その他	15	20	25
合計	125	131	166

毎年増えているね。

平成六年三月には高知市と日章に留学生向けの国際交流会館が完成。現在高知大、高知医科大学の留学生と、その家族四十六人が入居しています。



▲岡豊町

◀日章

「現実には厳しいの上、一年間だけだし、部屋を借りると高いし……。ごみの出し方や、生活習慣の違いから近所の人とトラブルになるからといって、部屋を貸したくない場合もあるの。自治体によっては不動産屋の案内を伴って部屋探しを手伝っているところもあるらしいのよ。」



**井上アリスさん**(大塚) 結婚を機にフィリピンから来日して十年を向かえるアリスさん。来日当初は言葉の問題などですが、持ち前の明るい性格と、テレビを見る時も辞書を片手に勉強するという熱心さで、日本語もめめき上達。家族の



**ノエル・テュンカさん**(取南町) フィリピン出身、母国では自然資源環境省に所属。平成五年から九年まで高知大学農学部で勉強のため留学中。大学では林業の経営や、農民参加の手法などを学んで社会林業を専攻し、帰国してから大学での研究の道に進んでいます。



協力もあり、今では近所のみなさんともすっかり打ちあけました。 たまたま近所にいる田村こどもクリニックの先生に、最近増えている外国人の患者さんの対応のためにぜひと頼まれ、現在同クリニックで事務の仕事をしています。 また、週一回近所の小学生四人に英語を教える中、この教室ではアリスさんも子供たちからずいぶん日本語を教わったそうです。

成果を発揮できるような頑張っています。 ノエルさんは、今回の留学で日本での生活は二度目で、平成二年に来日。最初は、ホームステイをしながら全国各地を訪問、いろんな土地ののぞきを見ました。大学では熱心な研究の一方で、友達とパーティーをしたり、旅行にでかけたりのんびりしています。特に温泉旅行がお気に入り。県内外の温泉に出かけたりして、日本でのキャンパスライフを楽しんでいます。

「来日してからはしばらくは友達ができなかったんですけど、でも、子供が生まれるとその話題で盛り上がったんです。それから近所の人たちとすぐ仲良くなりました。今、日常会話は自由にでき、漢字の勉強もしています。東京でも半年ぐらい生活したことがありますが、近所付き合いがなかったです。高知は近所付き合いも盛んで、いろんな人が親切してくれます。いい所だと思いますね。高知がふるさとと言えるようになりたいです。」



◀友だちと物部川でバーベキュー



◀自宅での英語教室は子どもたちとの楽しいひととき

▶田村こどもクリニックで働くアリスさん



ノエルさんは料理が得意で、魚介類を使ったフィリピン料理の講師を勤めたこともあるんだけど、なかなか好評で、今年も三月に講習会を開くの。



他に、魚や植物も育てているの。知り合いのおじいさんに盆栽を教わっているのよ。



ノエルさんの友人  
山島 倫子さん

ただ、慣れない土地での生活に初めはみんな苦労してると。部屋を借りるのに言葉がわからないし、借家に関する慣例にはかなりとまどうらしいの。動き口を探すのも難しいのね。ノエルの友だちで職を見つけた人がいるくらいなの。



そんなときに、周りに助けしてくれる人がいるかいらないか。外国人の手助けをしたい人はたくさんいると思うの。でも、干渉しすぎたり、声をかけても断られるんじゃないかと心配してしまう。付き合ひ方がわからないというか、なかなかきつかけがつかめないですね。

私には困ったことがあると力になってくれる人がいます。  
倫子は日本のお母さんです。  
もう！  
お母さんて年じゃないわよ



日本語が本当に上手なアリスさんですが、来当初は言葉でのトラブルもありました。言いたいことが伝えられない、相手の言うことがわからないというもどかしさを味わったのです。  
そんなアリスさんも、今では日本の生活にもすっかり慣れ、他の外国人たちの良き相談相手も努めてはるまじです。



とにかく時間がもったいない。仕事でもあいた時間には絵を描いたりしていましたね。羅物やパッチワーク、生け花などいろいろやりました。中でも折り紙は日本独特のものでめずらしく好きです。これもサークルに入っていたんですよ。



最近、交通網や通信施設などの発達により、世界各国との距離が縮まっています。そんな状況の中で国際交流、国際化などという言葉が耳にすることが多くなってきました。南国市でも昨年、高知医科大学、高知大の留学生がまほろば祭りに参加し、中国やフィリピンの料理を販売し、市民との交流を深めました。また、タイからの留学生四人をゲストに迎えた国際文化交流講座が、タイの留学生と国際文化交流講座では、「タイ文化に触れる」をテーマに、文化や習慣の違いなどについての活発な質疑応答があり盛り上がりしました。

国際交流を目的とした、こういった催しは大切な機会です。どうか器らしきものを作って、さて、これからのように器を満たすかを考える段階に差しかかったのです。これからの作業が大切になってきます。実際、今回話をうかがった人たちが一緒に言ったのが、一般家庭に入っている交流の大切さ。何か困ったことがあったときに相談できる相手が身近に居る心強さです。多くの外国人は生活に密着した交流を望んでいるのです。現実とはいうと、せっかく日本に来てもらっても、ふれあう機会がないばかりに、日本を誤解したまま帰国する方たちも少なくないとか。確かに言葉の違い、生活習慣の違いなど障害はたくさんある

と思います。だけど、互いに違う価値観を持った人が理解しあうということは、相手の価値観に照らしてみても自分のことを見つめ直すいいチャンスでもあります。ちょっとしたきっかけからです。  
南国市がこれから発展するに従い、ますます外国人の数も増えるでしょう。本当の意味で国際社会を目指すためには、施設や設備の整備とともに、広い視野を持った人材の育成、市民全体の意識の向上が必要になってきます。相手を思いやる心、心と心のふれあいで器を満たすことができれば、それが本当の意味での交流、本当の意味での国際化ではないでしょうか。



### 日本の空の安全を守る 航空保安大学岩沼分校

航空機の安全な飛行や、離発着のための指示や確認などを行う航空保安職員の養成を目的としたのが、航空保安大学校です。

この大学（昭和34年、東京国際空港に開設された航空職員訓練所が前身）は、国内唯一の航空保安職員養成学校として東京に設置されていましたが、墜石の航空機事故（昭和46年）を契機に、航空保安施設の近代化と航空保安職員養成の必要性から、昭和49年、仙台空港に隣接して岩沼分校が設立されました（運輸省が設置）。

岩沼分校では、航空保安業務に従事する職員を対象に、高度な専門研修を行う学校として近代的な設備を備え、実技研修を行っています。

全寮制で、全国から年間600人余りが入学しており、近年、女子生徒も多くなっています。

昨年4月、開校20周年を向かえ、拡大する一方の空の便の安全運航に、一層重要な役割を担うこととなります。

### 表紙写真募集

「広報なんこく」では表紙の写真を一冊募集します。

#### 【応募方法】

- サイズ キヤビネ版
- テーマ 人のいる風景
- 作品は住所・氏名・年齢・職業・電話番号を用紙のうえ
- 市役所企画課広報統計係（〒七八三 南国市大塚甲二二〇一）
- 〇〇〇〇〇〇〇〇まで